

あつまれ！みんなの声

このコーナーは、今後「みんなの面」として、推進委員、学校現場、企業等人権啓発・人権教育に関わる皆さんから投稿していただき、「だより」をもっと身近に感じられるものになればと企画しました。内容は、当該「だより」のテーマについて思うこと、地区活動を実施している中で感じたこと、日常生活の中で人権に関わることで感じたこと等…です。皆さんの声の輪をつないでいきたいと考えています。

～ 人権協推進委員さんからスタートを切っていただきました！～

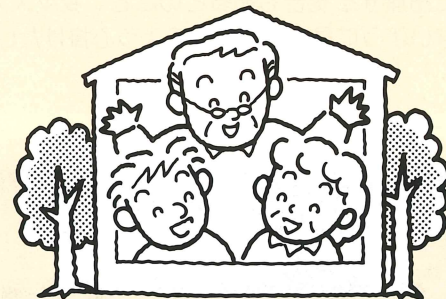
推進委員の独り言

十数年以上も昔の話である。職場の先輩に聞いた話がある。

・ ・ ・ 今まで若いうちは、仕事や職場に慣れるためにただひたすらわき目も振らずに働いてきたことだろうが、それだけでは大人として社会人としては、十分とはいえない。職場で与えられた仕事をこなすだけでは足りない。地域の中でも人としてやるべきことがあり、その役割を果たしてこそ一人前といえるのではないか ・ ・ ・

その言葉には感じるどころがあった。以来、まことに微力ながらも地域の人々の理解に支えられて人権推進委員として末端の活動に携わってきた。通勤途上に人が倒れているのを見ても、「関わったら会社に遅刻する…」と真っ先に思ってしまうような心貧しい現実の自分が、曲がりなりにも活動に参加できてきたのも、地域の中で出会った人々とのつながりがあったからだ感謝している。

人権啓発は人と人との相互理解から始まるのではないかと近頃思うことが多い。



(吹六地区委員会 推進委員)

ご存知ですか 住民票など、第三者への交付時、本人に通知する制度ができました。

事前に登録すると、戸籍や住民票の写しなどを第三者に交付したとき、郵便で知らせてくれます。種別や交付日、通数などの詳しい内容が必要な時は、申請すれば証明書が発行されます。(手数料200円)

登録できる人は、吹田市の住民基本台帳に記録されている人や戸籍に記載されている人で、除かれた住民票や戸籍も含みます。

申込み：市民課（市役所1階）または出張所まで

問合せ：市民課 TEL 6384-1235 FAX 6368-7346

あなたも人権啓発推進委員になりませんか！

人権啓発を目的に、各地区でいろいろな活動が行われています。あなたも人権啓発推進委員になって、一緒に活動しませんか。

・・・ 下記の人権協事務局までお問い合わせください。・・・

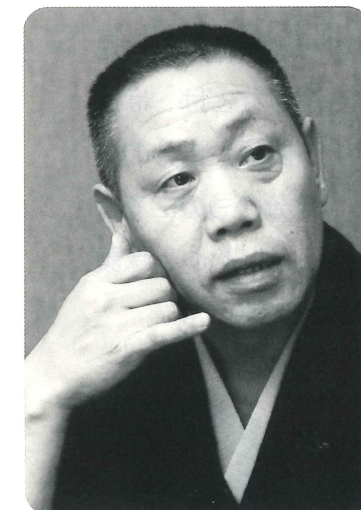
発行／吹田市人権啓発推進協議会

事務局：吹田市自治人権部 人権平和室 内
〒564-8550 吹田市泉町1-3-40
TEL.06-6384-1539 FAX.06-6368-7345
メールアドレス suitajinken@wi.kualnet.jp



—2010— 人権フェスティバル ～子どもをしかるとは～

子どもを叱れない大人たちへ



講師
かつら さいか
桂 才賀さん(落語家)



—コンサート—
「国を超え、
言葉を超えて」
さえき あんな
沢木 杏奈さん(タンゴ歌手)

日時 **12/5 (日) 13:30 ~ 16:00**
場所 **メイシアター 中ホール**
入場無料 手話通訳あり

ちがいを認め合い、共に生きることのできる社会をめざし、「人権フェスティバル」を開催します。

今回は、落語家であり、少年院篤志（とくし）面接委員としても長年活躍されている桂才賀さんをお招きします。子どもを取り巻く厳しい現状を踏まえながら、我々大人の有り様についてお話していただきます。

また、コンサートは、海外でも高い評価を得ている沢木杏奈さんをお招きして、国際理解をテーマにしたお話とタンゴの素晴らしい歌声を楽しんでいただきます。

さらには、今回初めて、じんけん作品入賞者への表彰式も行います。

皆さんのご参加をお待ちしています。

同時開催

■じんけん作品・パネル展

12/4(土)～10(金) 10時～17時

メイシアター 1階展示室

■人権週間に関する書籍の紹介

市立図書館各館、男女共同参画センター

図書コーナー

人から人へ心つなぐまち

～じんけん作品集・巡回子どもたちのじんけん作品展～



昨年度 じんけん作品展

市内の小・中学校、高校生を対象に、「日常生活の中での人権に関わること」「社会の中にある人権問題」「平和の大切さ」等のテーマに沿い、子どもたちの心のメッセージを作文、ポスター、詩、標語で表現した作品を募集し、入選作で『じんけん作品集』を作成します。

また、市庁舎(12/13～12/16)及び市内社会教育施設等の6箇所、『巡回子どもたちのじんけん作品展』を開催しますので、是非とも足を運んでみてください。児童・生徒、市民の皆さんにとって「人権」の持つ意味を考える機会となることでしょう。

※場所・日程については、市報すいた12月1日号に掲載します。

吹田市教育委員会 教育政策室

大人の考え、子どもの気持ち… その1

「市民ひゅーまんセミナー」から「人権フェスティバル」へと続く流れの中で、皆さんとともに「子どもの人権」について考えていきましょう。このコーナーでは、「学校生活から見えてくる 子どもの心」ということで、元教員の目で感じたことを皆さんにお伝えします。



今回は、「自分を大切にすることは、他の子どもをも大切にすること」という内容でお話します。

子どもたちの本来の姿は、それぞれの年齢に応じた課題を一つひとつ自分で解決・克服することにより、精神的に成長していきます。しかしながら、最近の子どもたちの傾向として、はじめから諸課題に正対できない子ども、しようとなしな子どもが増えてきています。それらの要因として、核家族化・少子化・私事化・地域力の低下などが、背景にあると思

われます。また、以前は当たり前に見られた年少期からの年齢を超えた集団活動や遊びなどは、ほとんど見られなくなりました。その結果として、一つには、それらの遊びを通して上下関係や自分の立場・役割などを経験することで獲得されてきた、「たくましさ」や「力強さ」などが自分のものにできなくなったこと。もう一つには、一般的には「過保護」という表現で置き換えられる、いわゆる保護者や周りの大人から子どもたちへの誤った支援・援助などが大きく影響していると考えられます。

それでは、保護者や周りの大人は、どのような支援や援助を子どもたちにしていくことが、子どもたちの自尊感情の醸成や生きる力の育成に繋がっていくと思われませんか。

答えとして、私たち大人が短期間に好結果を求めようとせず、子どもたちが目の前にある課題を苦しみながらも解決しようとする過程を、時には励まし時には叱りながらも、温かく見守っていくことだと考えます。『転ばぬ先の杖』ではなく、転んでもできるだけ怪我をしないように手のつき方を教えてやれば、子どもたちは自分に関わる大人の考えや気持ち、意図をしっかり汲み取り、自らの足で歩むものです。それが大人としての子どもに対する本当の優しさであり、子どもとの確かな絆になると思います。子どもが自らの力で成し遂げたときには、周りの大人はしっかりとほめてあげることが大切です。このような経験の積み重ねによって子どもたちは達成感を覚え、自らの力を信じ、その結果自分の存在を尊いものとして肯定的に捉えられるようになります。そこには自ずと自分を大切にすることが生まれるのです。自分を大切にできない子どもが、同じ人間である他の子どもをも大切にできるはずはありませんね。

【次号へ続く】

(事務局 半田久則)



地区委員会の取り組み

今回は、人権フェスティバル講師の桂才賀さんの講演に関連して、子どもの問題に関する活動内容を報告していただきました。

※ 交野女子学院を訪ねて ※

交野女子学院を訪問して、まず学院内に塀のないことに驚きました。昭和23年に開設され、昭和28年に現在の地に移転した当時は、周りは田んぼばかりだったそうです。現在は民家や工場がいっぱい建っています。男子少年院と異なり、玄関を入った正面には手芸品が飾ってあったり、外にはきれいな花が植えてあったり、何となく穏やかな感じを受けました。10年ほど前より「生命尊重教育」の一環として広い敷地を活用し野菜等を育て、土に触れて収穫の喜びを感じる取り組みもしておられます。女子の犯罪では、売春、覚せい剤が多く、入院中に出産する場合もあるとのこと。我々大人は、青少年が再び罪を犯さないように見守っていけるよう心掛けたいものです。

(桃山台地区委員会より)



※ 子どもたちを支える地域の輪 ※

吹三地区では青少年対策委員会を始め様々なボランティア組織が、子どもたちの健全な育成を願って活動をしています。最近では、地区福祉委員会や民生児童委員会が子育て支援として、0歳児から就学前児の見守り活動を行っています。これらの組織がお互いに連携を図り、全体的な育成活動と個別支援の活動に繋がっていただければ幸いです。ただ個別支援については、公的機関との連携が個人のプライバシーの問題から十分に取れないことがあります。しかしながら、虐待のような子どもに関わる深刻な問題が多発している現状では、お互いの信頼関係と連携を一層強めるとともに、地域の指導者の育成も真剣に考えていかなければならない時期に来ていると痛感します。

(吹三地区委員会より)



※ 講演会で子どもの育て方を学びました ※

大阪府教育委員会チーフ・スクールソーシャルワーカーの西野緑さんを講師にお迎えし、「子どもをいかに守り、育てるか」～不登校、いじめ、虐待の現状から考えること～と題し、小学校PTAと共催で講演会を開催しました。「暴力」「愛着」「孤立」をキーワードに、子どもを取り巻く環境である家庭・学校・地域でできることを中心にお話をいただきました。自分を大切にすることは、すなわち人権意識を育てること、子どもの潜在的な力に注目し、子どもと関わっていくこと、問題行動が表れた子どもに対して私たちがすべきこと、さらには、大人も社会から孤立しないようにするためには等々…子育ての目的を再確認しながら、学ぶことができました。私たち大人が、学校や地域で風通しの良い関係を作り、あきらめず子どもと向き合っていきたいと思っています。

(山三地区委員会より)

